

待賢幼稚園の歴史

年号	年・月・日	内 容
明治	21・8・15	待賢尋常小学校付属事業として設置、開設式を挙行 幼児保育料として猪熊通り榎木町上の大黒町の小学校敷地内に創設された。提唱者は、時の校長木村繁三郎氏であった。 (大黒町は、平安宮殿の、東側、待賢門の旧跡地付近だったので、待賢尋常小学校と命名されたようである)
	25・3	京都市議会議決により、京都市待賢幼稚園と称し小学校と分離したが園長は、木村繁三郎氏が兼務した。以後58年間幼小は兼務である。
	25・8・15	創立5周年記念式典が挙行 当時の園児数は73名
	31・9・15	創立10周年記念式典が挙行 当時の園児数は119名
	39・2・8	旧京都所司代屋敷跡に小学校とともに移転(猪熊丸太町角)
大正	44・10・1	市電軌道創設のため園舎の位置変更、正面を猪熊通りに移転
	7・10・1	創立30周年記念式典挙行
昭和	14・3・15	鉄筋コンクリートに改築竣工 小学校鉄筋コンクリート3階建改築と同時
	20・7	大東亜戦争のため当局の指示により休園
	20・10	終戦となり再開園
	23・4・15	待賢幼稚園保護者会創設
	23・11・1	創立60周年記念式典挙行
	24・4・1	園長専任となる
	25・12・23	園長室新設
	28・9・25	職員室新設
	31・7・11	遊戯室廊下増築
	30・10・23	創立70周年記念式典挙行
	34・9・5	昇降口増築竣工
	43・11・6	創立80周年記念式典挙行
	51・8	便所を水洗便所に改修
	53・11・28	創立90周年記念式典挙行
	55・9・1	園舎改築(遊戯室、園長室、職員室、管理用務員室、便所、廊下、窓、砂場など) のため、待賢小学校校舎の一部借用移転する。
	55・9・10	改築のため京都市埋蔵文化財研究所により文化財発掘調査
	55・10・11	起工式挙行
	56・3・31	園舎竣工
	56・4・2	新園舎へ移転
	56・4・25	園舎竣工式を挙行
	58・8・6	特色ある園づくりの一環として「お泊り」保育を実施する。
	61・4・1	園長が再び兼務になる。
	61・8・7	京放協大会で「主体的に行動する子育てとテレビ視聴」について発表
	61・8・31	園庭北側に初めて「側溝」ができる。
	61・10・5	園庭西側に「大型禽舎」設置

平成	61・10・17	近放協京都大会で「園芸飼育とテレビ視聴」について発表
	63・5・29	創立100周年記念事業でバザーが行われる。
	63・11・23	創立100周年記念式典挙行
	8・4・1	待賢小学校が統合され幼稚園が残る。専任園長になる。
	9・4・1	保健職員配置（小学校の統合により養護教諭二条城小へ兼務となる）
	10・8・8	創立110周年記念“夏祭り”を地域と共にを行う。大山・ログハウス・サイロ
	11・4・1	子育て支援事業の一環として未就園児の教育相談を強化する。
	12・4・1	地域に開かれた子育て支援事業、3歳児「いちご組」に保育補助者。
	12・8・25	職員室・洗面所の改修
	13・7・1	学校評議員制度を取り入れる。
	13・8	防犯カメラの設置（通用門）
	14・7・27	快適トイレ工事
	15・3・7	四園交流研究報告会（総合教育センターにて）
	15・3・26	コンピューターの導入により、電子メールへの移行始まる。
		防犯カメラ校庭側に設置・築山改修
	15・9・1	元待賢小学校3階に関西フランス学院が開校。園児との交流進める。
	16・6・14	園舎北側廊下の床の改修、看板と支柱の塗装工事
	17・8・1	園舎耐震調査、プール一部改修
	19・3・28	園庭及び花壇の改修
	19・3・28	学校運営協議会発足、消防設備点検、砂場ネコポール設置
	20・10・25	創立120周年記念式典挙行・たいけんカーニバル実施
	21・4・29	石垣の塀の撥水工事・フェンス改修・通用門とアプローチ改修
	22・10・30	第61回造形表現・図画工作・美術教育全国大会京都大会 研究保育・研究発表
	23・9・	耐震工事
	24・3・	遊戯室・はな組保育室空調設置
	25・3・	2階廊下照明増設
	26・3・	門をオートロックにする。
	26.4～27.3	国立教育政策研究所 教育課程研究指定
	27・4～	預かり保育（午後6時まで）の開始